

学校教育目標	◆「友達が好き」 自分らしさを大切にするとともに友達を大切に、互いに認め合いながら豊かに成長し合う力を育てます
	◆「台小が好き」 自分らしさを発揮し、友達とともに問題解決しながら温かく豊かな学校生活をすすんで創ろうとする力を育てます
学校概要	◆「このまちが好き」 まちのかかわりを大切に、まことに愛着をもち地域の一員としてすすんでかかわる力を育てます
	○友達との学び合いを大切に、問題解決に粘り強く取り組みながら自らの考えを深め、豊かに表現する力を育てます。(知)
	○人との豊かなかかわりを通して、自他を大切にしている心と態度を育てます。(徳)
	○地域に愛着をもち、地域や社会のためにすすんでかかわる力を育てます(公)
	○人とのコミュニケーションを通して、広い視野で共に生きていく力を育てます(開)

創立 49 周年	学校長 原 南実子	副校長 岩田 幸子	2 学期制	一般学級: 14	個別支援学級: 4
児童生徒数: 423 人		主な関係校: 小山台中学校、小山台小学校、小菅ヶ谷小学校、本郷特別支援学校、本郷中学校、西本郷中学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
《コミュニケーション能力》 《協働して課題解決する力》	小山台中学校 小山台小学校 小菅ヶ谷小学校 本郷特別支援学校	豊かなかかわり合いの中で、自らの課題に粘り強く取り組む子ども ○仲間とともに協働しながら問題解決に取り組み、生活や自らの学びにすすんで活用できる力を育てる。 ○豊かなかかわりを通して、多様な他者を認め合い、共に生きる力を育てる。 ○主体的・対話的で深い学びの実践が連続性や一貫性をもって図れるよう、各校実践の情報共有等を通し、子どもの姿や声で成長を見とっていく。

中期取組目標	◆探究する気持ちを大切に、主体的・対話的で深い学びを充実させます。 ○1、2年目は、本校教育活動の柱である生活科・総合的な学習の時間が持続可能な教育活動として根付くよう、これまでの研究をまとめ、教育課程に反映していきます。また、幼稚園と連携しスタートカリを含む接続カリを整理し、6年間のエビデンス(子どもの姿)をまとめながら連続性・一貫性のある教育課程として反映させていきます。 ○3年目は子どもの姿を通した評価を行うとともに、子どもが自らの学びを自覚し、高めていけるようにします。
	◆まちやまちの方々とのかかわりを大切に「社会に開かれた教育課程」の実践と充実を図ります。 ○3年間を通して取り組みます。 ◆自分らしさを発揮し、他者とともに生きる力を育みます。 ○3年間を通して、多様な他者とのかかわりを大切にするとともに、豊かな体験を通して一人ひとりが自己有用感をもち、ともに豊かな生活を創りだそうとする心と行動力を育みます。

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①重点研のテーマを「友だちとの学び合いを通して、本気の思いを実現する子」とし、生活科、総合的な学習の時間を中心に、学び合いのある授業展開を工夫し、協働的な学び合いができるようにする。②児童の主体性を伸ばすために、教職員間で連携をとりながら、幼稚園との接続を踏まえたスタートカリキュラムを推進する。
担当 重点研推進委員会	
徳 道徳教育	①豊かな心の育成を目指して、道徳科を柱として学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進する。 ②たてわり活動や本郷台特別支援学校との交流を通して、学年や学校の枠を超えて、互いを認め合う学習を展開していく。
担当 道徳教育推進	
体 健康教育	①学校保健委員会を充実させ、定期的に活動を振り返るなど年間を通した取り組みになるようにする。②健康診断や保健の学習等を活用し、児童の健康への意識を高め、年間を通して様々な場面で健康教育の推進を図る。③ロング昼休みや委員会児童が計画する運動プロジェクトなど、楽しく運動する機会を年に複数回計画的に設定する。
担当 体育部・保健部	
公開 自分づくり教育(キャリア教育)	①特に生活科や総合的な学習の時間などを中心に体験的に学ぶ機会を充実させ、他者との関わりの中で自分の思いを表現しながら一人ひとりが自己有用感を高められるようにする。②「自分づくりパスポート」や「行事等の振り返りカード」を活用し、子ども自身の姿や成長を自己評価できるようにする。
担当 特活部	
いじめへの対応	①研修や授業等を通して、いじめに対する意識を職員・児童ともに高め、未然防止・早期発見・早期対応に務める。②月1回以上定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、職員全体で指導の統一を図る。③年4回のアンケート等により児童がSOSを発信する機会を作る。また横浜プログラムの実施を充実させ、日常的な児童からのSOSの発信ができる環境づくりに取り組む。
担当 人権教育・児童指導担当	
人材育成・組織運営(働き方)	メンターチーム: 授業を見たり、見てもらったりする中で、課題や身に付けたい力を明確にし、チーム全体で授業力の向上を目指す。ボトムアップチーム: 働き方改革を窓口とし、組織同士のつながりや組織に働きかけて動かしていく行動を積極的に取り入れながら組織の円滑な運営と個々の人材育成を目指す。主幹チーム: 職員の仕事の効率化円滑化を考慮し、課題を話し合い、改善に向けた取組を迅速に行う。組織的な運営と人材育成に向けて適宜助言を行う。
担当 人材育成チームミーティング	
地域連携・学校運営協議会	①地域コーディネーターとの連携を密にし、ねらいを共有して保護者、地域の教育力を導入し、授業の活性化を図っていく。②学校運営協議会などで、学校の取組を発信し、評価を受け、運営改善に努める。
担当 環境教育推進・教務部	
特別支援教育	①特別支援全体会を開き、児童の特性などを職員間で共通理解を図っていく。②ユニバーサルデザインについて理解し、学年で掃除のやり方や教室環境などを統一し、安心して生活できるようにする。③よりよい教育活動をしていくために、視覚的な支援(視聴覚機器等)などを必要に応じて行っていく。
担当 特別支援教育部	
児童指導	①職員・児童・保護者等で学校のきまりを見直す機会を年に2回設定し、ルールづくりを行う。②児童の状況を学年研等で共通理解し、複数の目で児童を見守る。③「YPアセスメント」による児童理解と支援から指導までつなげられるようにする。④特別支援教室の運営体制を整え、個に応じた適切な学習支援の意識を高めていく。
担当 児童指導推進	
安全防災	①安全部を中心に、職員全体で、災害緊急避難時や不審者対応時に、子どもたちが安全で正しい避難方法、避難経路を判断できる力や行動力を育てる。そのために様々な想定での避難訓練を計画し、実行する。また、関係機関とも連携をとり、必要に応じて訓練や研修のサポートをしてもらう。
担当 防災安全部	